

環境文明社会づくり あれこれ(42)

源流(42)

次なる登場人物は上田勝朗さん。私の記憶では、初対面の時はまだ30歳になったかならぬかの富山県環境保全協会の役員の一。当時、各種業界団体の役員は、上京した折には、差し迫った案件がなくとも(ある場合には血相を変えて怒鳴り込んできた)、主務官庁である本省の課長ら幹部を訪ね、名刺交換したり写真を撮ったりして“土産”にすることが多かったようだ。

そんな中に上田さんもいたが、彼の場合、名刺も甚だユニークで、2枚つづりで情報にあふれていた。「初めてこんな名刺を見ましたよ。」と直接言葉を交わし、その一言から始まった付き合いは、私の清掃・浄化槽行政官時代から40年以上経った今でも続き、環境文明21のなくてはならぬ理事の一人として支え続けてくれている。

彼の経営者としての基礎は、実家での仕事に加え、若い時から青年会議所(JC)で活動しながら鍛え上げられたものではないかと思う。実際、私が地球環境問題を担当するようになると、何度かJCの講演に招かれ、その度に彼の

「成長」した姿や仲間とのやり取りを見てそう感じた。

その後も経験を積み順調に出世し、今や全国浄化槽団体連合会の会長である。時折彼のリーダーシップを拝見する機会があるが、見事の一言。

三番手は私が現職時代に親しく付き合った社長方の二世、三世の世代で、キラ星の如く頼もしき存在であり、環境文明21を技術、資金の両面で支援し続けてくれている。

現リマテックホールディングス社長の田中靖訓さんは、当時の近畿環境興産(株)田中正敏社長の長男である。聞くところによると、正敏氏は当会の会報「環境と文明」の中で新しい考え方に触れて、当時ラサール高校に在籍していた息子らにも送り届けていたという。そんな縁で、靖訓さんが東京の大学に進学すると、川崎の新丸子にあった我々のオフィスに時々現れ、IT関係を手伝ってくれるようになった。以来約30年、彼は専務となり社長となり、今や資源循環・脱炭素経済をリードする若き経営者の一人となっているが、もちろん、折にふれ当会の事業に協力してくれている。

その田中靖訓さんとガラッと趣を異にする

加藤 三郎

若手経営者が川本義二さんである。彼は、旧関西特殊産業(株)(現(株)カンサイ)三代目で、清掃事業魂をしっかりと腹に据えてびくともしない。社員を信じ大切にし、新時代にふさわしい環境総合創造企業への転換を私たちに託して会社の基礎を作り直し、順調な発展を続けている。

若手世代からのもう一人は柴山徳一郎さんである。お名前から想像できると思うが、合併浄化槽確立の大恩人・柴山大五郎氏の孫である。大五郎さんの叙勲やご葬儀の時など、度々柴山家を訪れているうちに徳一郎さんと知り合い、後年NPOを立ち上げると、真っ先に会員になり、今は理事として支えてくれている。

なお、広島市訪問の際に、環境局長から「公共下水道への公費負担は百万円」の情報を得た話を2回前に記したが、それは、市職員で厚生省整備課インターンも務めた外和田孝章さんが局長に強く進言した結果だと最近知った。外和田さんは公務を終えた後も、当会の熱心な会員で、支援し続けてくれている。

